

## 地域福祉活動計画策定委員会 第6回委員会 会議録

1. 日時 平成26年8月5日（火）13:30-15:30
2. 場所 小諸市人権センター 大会議室
3. 参加委員等（13名）  
中村委員長、山本副委員長、小川委員、相良委員、竹中委員、田中委員、中山委員、西川委員、  
牧野委員、三島委員、村上委員、望月委員、小林アドバイザー  
欠席委員等（4名）  
福島委員、松本委員、坂本委員、上野谷相談役
4. 内容
  - (1) 開会
  - (2) ここまで振り返りと今回の目的の確認…事務局より説明。
  - (3) 報告事項
    - ① 情報公開の状況…情報公開の状況を確認。
  - (4) 会議事項
    - ① 地域福祉活動計画書（案）の構成についての検討
      - ・ 第1章の構成と内容について
      - ・ 第2章の構成について
      - ・ 第3章の構成と内容について
      - ・ 愛称や表紙のレイアウトについて
    - ② 本日の分科会の説明
  - (5) 分科会…4分科会に分かれ、資料を基に意見交換。
  - (6) 会議事項
    - ① 各分科会の報告…各分会より本日の取り組みを報告。
  - (7) その他
  - (8) 次回会議（第7回）…平成26年9月2日（火）13:30～人権センターにて開催とする。
  - (9) 閉会

## 議事要点

### 1. 開会

(委員長) 第5回までの委員会の中で議論され、小諸版地域福祉活動計画の形が見えつつある。今日はさらに議論を重ねていきたい。

### 2. ここまでの振り返りと今回の目的の確認

(委員長) 事務局より説明を。

(事務局) 本策定委員会は、昨年9月の第1回目の委員会では計画の方向性について検討、第2回目では住民の意見交換会について検討、3回目では住民アンケートについて検討、第4回目ではここまでに集められた情報を基に分科会で意見交換をいただいた。前回第5回も引き続き分科会に分かれて、具体的な事例を挙げながらこんな小諸にしたいというテーマで話し合いをいただいた。ここまでの経過を積み上げ、事務局で素案を作成したので、今日審議いただきたい。

### 3. 報告事項

#### (1) 情報公開の状況

(委員長) 事務局より報告を。

(事務局) 当日配布資料1ページはコミュニティテレビこもろにて6月3日に報道いただいた前回の策定委員会の様子、2ページは社協ホームページでの公開状況、3ページ以降は前回会議の議事要点であり、ホームページ上で公開している。

### 4. 会議事項

#### (1) 地域福祉活動計画書(案)の構成についての検討

##### ① 第1章の構成と内容について

(委員長) 事務局より説明を。

(事務局) ≪第1章を読み上げ≫

(委員長) 構成について意見交換したい。

(委員) 「今の豊かな支え合いが維持される」という基本理念は、5年後に今の体制が維持されていけば良いと解釈できる。現状維持で良いのか？

(事務局) 少子高齢人口減少社会の中での現状維持とは、人口が増える社会の中での現状維持とは意味が異なると考えている。第1回策定委員会で中長期的な地域福祉の方向性として「今の豊かな地域が維持できることが大切」という部分が確認されており、今回基本理念案を事務局として提示している。事務局案をたたき台として策定委員会の中で議論いただきたい。

(委員) 意図は理解できるが表現に工夫が必要だと感じる。

(委員) 少しでも前に進む表現が適切ではないか。

(委員) メッセージを受け取る側の問題であり、今の表現でも特に問題はないと感じる。

(委員) 疑問を持つ人は少ないほうが良いと思う。

(副委員長) 第4回、第5回策定委員会の分科会での意見が反映されているのなら、この表現で良い。そうでなければ、ここでの議論で適切だと思われる表現に変更すればよい。

(委員長) 事務局としてはいかがか。

(事務局) この表現の趣旨は先ほどの説明のとおり。今後、今の支え合いを維持していくことから大変な社会になることは間違いない。ただし、趣旨が伝わらない理念では意味がないので皆様に議論いただきたい。

(副委員長) 「維持」という表現は前に進まない消極的なイメージがある。同じ趣旨でも別の表現をすべき。

- (委員) 第1回策定委員会で事務局からこの理念が提案され、私たちは承認しているが、意図を的確に表現するのであれば、第1回資料中の基本理念に続く表現「地域の持つ力が発揮され続けるような」という表現のほうが適切だと考える。
- (委員) 今の意見に賛成。
- (委員) 『維持』という表現に違和感があるが、『今の豊かな支え合い』という表現も気になる。個人的には「豊かな支え合いがある」という実感が無い。
- (副委員長) 愛知県安城市や岡山県倉敷市の地域福祉活動計画を取り寄せてみた。両方とも小学校区ごとの地区社協が設置されている。小諸市もそこまで進めていく必要があるわけで、維持では不十分。
- (委員長) 事務局としてはいかがか。
- (事務局) 先ほど出されたように「地域の持つ力が発揮され続ける」という表現が委員の意向に沿っていると感じる。
- (委員長) 他に意見は。
- (委員) 障がいのある子を持つ親の立場からすると、障がい者に対する支え合い体制はまだ不十分であり、『この子よりも先には死ねない』という思いを抱かざるを得ない。だれにも頼れない現状であり、「豊かな支え合いがある」とは感じられない。
- (委員長) ここまでに出された意見を踏まえ、再度事務局案を提示を。
- (事務局) 次回策定委員会に再度提示する。
- (副委員長) 分科会で話し合われている内容を精査し、基本理念に盛り込んでほしい。そもそも、今の地域の支え合いが「豊か」であれば地域福祉活動計画は必要ない。
- (委員) 事務局と策定委員の間に地域の現状に対する認識の差があったことがわかったので、一歩前進した印象がある。
- (委員) 様々な立場から委員会に参加しているので、視点の違いもあり、意見の違いもあって良い。
- (委員) 繰り返しになるが、第1回策定委員会資料中の「地域の持つ力が発揮され続けるよう」という言葉が今の状況にふさわしい。
- (委員) 「今できていることを大切にする」という基本視点は良いと思う。
- (委員) ここまでの議論では「今何が出来ていないのか」を検討してより良くしていくという考え方が強い。一方、事務局は「今なにが出来ているのか」という視点で支え合い活動を見直しており、今後の方向性は両方の視点が必要だと感じる。
- (委員) 計画の推進と評価体制ということでPDCAサイクルが提示されている。PDCAサイクルは継続的改善という考え方だと理解している。改善と維持という言葉には開きがある。
- (事務局) 支え合いを維持する手段の継続的改善を図る必要性があり、評価体制はPDCAサイクルが必要だと考えている。また、社会福祉協議会と地域の方々の協働により支え合いを維持する手段を改善するという意味で地域福祉活動計画は必要。
- (委員) 継続的に手段を改善することで、次の手段や協働のあり方が見えてくるという点でPDCAサイクルでの評価の位置づけが理解できた。地域福祉活動計画は、支え合いを続けるためのいろいろなつながりの創出が目的か？
- (事務局) 事務局ではそう考えている。今の支え合いを続けるということは、同じことを続けるという意味ではない。例えば、第3、4回策定委員会の分科会の中で「伝統を取り壊せ」という意見があった。そういう視点も必要になる。今回議論を踏まえ、基本理念を再度提示したい。

## ② 第2章の構成について

- (委員長) 事務局より資料の説明を。
- (事務局) ≪第2章の構成について相談1.を題材として説明≫ 一般的な地域福祉活動計画書に盛り込まれる社会福祉協議会としての具体的な取り組み・事業名等は評価項目として別途取りまとめを予定している。
- (委員長) 枠組みについて意見を。

(委員) 社協のやります宣言の内容が漠然としている印象がある。

(委員) 支え合いは社協に全てお任せという感じがある。本来は住民が考える部分であり、考えるきっかけとしてこの活動計画書を活用したいが、その方向性で良いか。

(委員長) 事務局の見解を。

(事務局) 事務局も同じ方向性で考えている。活用いただくためには、具体的な取り組みを考えるきっかけとなる構成と表現が必要。【ここがポイント】の中に考えるきっかけを記してある。しかし、個人でこの計画書を開いても具体的な行動につながりにくいと想定している。地域の学習会や小中学校の福祉学習の時間に社会福祉協議会が同席し、この活動計画書を題材として、「共に何ができるのか？」を考えていきたい。

(委員長) 枠組みの提案をいただいているが、内容についても検討が必要であり、分科会でも継続して枠組みと中身について議論をいただきたい。

### ③ 第3章の構成と内容について

(委員長) 事務局より説明を。

(事務局) 第3章は参考資料。今回の活動計画書は手に取りやすさを重視しているので、住民団体意見交換会や住民アンケートの結果、策定委員会の開催履歴などはこちらには掲載していない。それらの情報は社会福祉協議会のホームページでの公開とする。よって今回参考資料は二つになります。《資料内容の説明》

(委員長) 第3章の内容を含め各分科会で議論を。

### ④ 愛称や表紙のレイアウトについて

(事務局) 事務局より説明を。

(事務局) 愛称や表紙のレイアウトは手に取っていただくための重要な要素となる。事務局では市民公募を検討したが、地域福祉活動計画自体の認知度が低いため今回は社協内部での公募とした。今後、策定委員会に愛称ならびにレイアウトの案を複数提示するので、選考いただきたい。なお、次期活動計画策定の際には愛称・表紙レイアウトともに市民公募としたい。

(委員長) 愛称や表紙のレイアウトの考え方は事務局案の通りで良いか。

(委員) 良い。

## (2) 本日の分科会について

(委員長) 事務局より説明を。

(事務局) これまでの分科会で出された意見を反映した素案を基にして、第2章の内容・表現について意見交換をお願いしたい。

(委員長) 本日の委員会の中で意見交換が不十分な部分を含めて議論を。

## 5. 分科会…4分科会に分かれ実施

## 6. 会議事項

### (1) 分科会の報告

(委員長) 各分科会で出された意見を事務局で整理を。

(委員) 第1分科会では【相談2. 災害時の支え合い】の【ここがポイント】の『組織の連携を図ることが良いといわれています』というところの表現が曖昧だという意見が出た。また、【相談3. 隣に住んでいるお年寄りのことが心配です】の【ここがポイント】の『心配な方がいたら、まずはあいさつをしてみませんか?』という部分は、「心配な方に限らず挨拶を交わすべき」、「心配なことの相談機関の表記も必要」、という意見が出た。【相談4. 支え合いの担い手がいません】では、担い手は実際にはまだいるので【支え合いの担い手がいなくなりそうですが】と表現を変えたいという意見が出た。中身とは別であるが、知的障がい者、視覚障がい者等へ内容を伝える手段を考える必要があるという意見もある。

- (委員) 第2分科会では【相談5. ボランティアを続ける上での悩み】と【相談6. ボランティアをしたい】の順番が逆ではないかという意見が出た。【相談5.】の【こんな支え合いのまち小諸にしたい】には『ボランティア活動が継続される小諸市』という表現があり、基本理念と同様に「維持」という表現が気になる。【相談6.】では、新たなボランティアの発掘も重要だという意見が出た。第3章については、写真は不要、名簿だけで良いという意見が出た。
- (委員) 第3分科会では相談7・8を協議。深く議論できなかったが、相談7.では、障がいを一括りにして表現しているが、わかりやすさという点では具体的な障がいの内容に触れた方が良いのではないかと意見が出た。また、【こんな支え合いのまち小諸にしたい】の『住みやすさ』『地域の一員』という表現があいまいだと意見が出た。
- (事務局) 第4分科会では相談1.9を議論。目標が漠然としているという意見が出た。【社協のやります宣言】は、具体的な事業名、評価基準を載せるべきとの意見が出た。
- (委員長) 事例の順番や表現の具体性など多岐に渡る議論が交わされていたようで、それが本日の成果と言える。事務局で総合的に再度意見を精査して素案を作成してほしい。

## 7. その他

- (委員長) アドバイザーよりコメントを頂きたい。
- (アドバイザー) 計画の全体像が見えてくると議論が活発になる。4ページの下に取り組みの体系図があり、これを膨らませていくことが大切。今回の活動計画書は、計画書を手取る人の視点を大切にして事務局で素案を作成している。この素案の裏側には膨大な資料や難解な言葉での分析がある。単純化する、わかりやすくすることの難しさがあるが、その作業自体を委員会で議論しながら取り組めるとより良い計画書ができあがる。

## 8. 次回会議

- (委員長) 事務局案の提示を。
- (事務局) 第7回策定委員会を9月2日(火)13時30分から小諸市人権センターで開催したい。
- (委員長) 異議なければ事務局案としたいがいかがか。
- (委員) 異議なし。
- (委員長) 予定していた議事は以上。閉会とする。